

Pediatric Lumbar Puncture Simulator

小児腰椎穿刺シミュレータ 小児ルンバール

M43D 11348-400



製品は絶えず改良を続けておりますので、仕様・外観など予告なく変更になる場合がございます。予めご了承ください。
このパンフレットに掲載の文章・情報・写真等については、許可なく無断転載・転用・コピーなどは固くお断りいたします。

取扱店

製造元



株式会社 **京都科学**

URL <http://www.kyotokagaku.com>

e-mail rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

本社・工場

〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町15
TEL.075-605-2510 (直通) FAX.075-605-2519

東京支店

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目26番6号
NREG本郷三丁目ビル 2階
TEL.03-3817-8071 (直通) FAX.03-3817-8075

実習項目

- 新生児への腰椎穿刺時の体位保持
- 腰椎穿刺場所の触診
- 消毒手順と局部麻酔手順の確認
- 腰椎穿刺と髄液採取
- 髄圧測定

特長

- 研修医や専門医が習得すべき検査手技の一つである小児腰椎穿刺技術の習得に向け、繰り返しのトレーニングで上達を目指すモデルです。
- 小児ルンパ-ルの穿刺部位は、人体に近い構造と穿刺時の刺入感を備えており、感触を確かめながら穿刺実習が可能です。
- 透明の穿刺パッド部や穿刺部皮膚は着脱が可能で、腰椎穿刺の実習時に皮膚の一部をはずすと、穿刺針の刺入状況の確認も可能です。

実習の手順

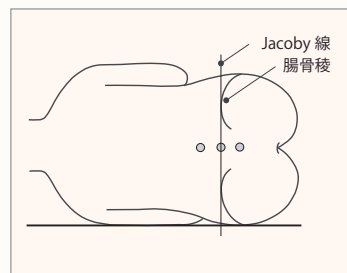
新生児への腰椎穿刺時の体位保持の実習

- 腰椎穿刺の成否を決める重要な要素である小児の体位の保持（身体の固定）を実習することができます。新生児の場合は側頭を適切な枕で支持し、両大腿部と肩を抱き込むようにし、背中部を突き出すようにおさえます。

※小児腰椎穿刺を行う場合は、実際には患者の安心確保が重要な要素となります。患者が安心できるための保護者の位置や、患者が落ち着ける五感への配慮が重要となります。

腰椎穿刺場所の触診実習

- Jacoby線（両側腸骨稜上縁を結ぶ線）の確認と穿刺部位の刺突起の触診が可能です、実際の手技時と同じ手順で刺入点を決める実習ができます。



消毒手順と局部麻酔手順の確認

- 消毒液の選定から、必要な消毒範囲・消毒の手順、回数、滅菌ドレープのかぶせ方を、消毒後は局部麻酔について穿刺位置や手順を学習します。

※このモデルでは、実際に消毒や局部麻酔注射は行わないで下さい。

腰椎穿刺と髄液採取の実習

- 小児の場合は 22 ～ 24G で短めの腰椎穿刺針を用いて穿刺を行います。
※ルンパ-ル針では手技が成功の場合は、スパイナル針からスタイレット（マンドリン）を引き抜くと模擬髄液の流出が確認できます。直針を使用の場合は手技が成功すると髄液の流出が確認できます。



髄圧測定の実習

- 人体と同様の圧力で模擬髄液を採取でき、マンメータやエクステンションチューブによる髄圧測定の手順確認も可能です。



※髄圧の設定については貯水袋の高さで調節して下さい。

● 監修・指導

国際医療社大学 教授
医学教育研修センター長 天野 隆弘

● 仕様

本 体：乳児モデル（6～7ヶ月児）
大きさ：約W43 × D34 × H20cm
重 量：約1.5kg
材 質：軟質特殊樹脂製



● 構成

モデル本体 …………… 1 体
腰椎穿刺パッド ……… 2 種各 2 点
（2種：深さ12mm・17mm）
貯水袋 …………… 1 点
スタンド …………… 1 点
シリンジ …………… 1 点
取扱説明書



● 交換部品



11348-410

腰椎穿刺パッド（2個組）

11348-410 皮膚よりクモ膜下腔、までの深さ 12mmタイプ

11348-420 皮膚よりクモ膜下腔、までの深さ 17mmタイプ



11348-420